

夕方どこかに逃げて行ってしまったと。

その日の真夜中頃、里ににわかにお風が吹いたと思つたら滝の沢の方角に大木が倒れるような地響きがしたので、朝早く滝に行つて見たら大杉が滝つぼに倒れこんで、冷たい水にうたれていたので、これはきつと神木なんだという事になってなあ、みんなで大杉のあつた丘に祠を建て、木の神、水の神、山の神を祭つたのだと。」

「酒つくりの名人はなあ。」

「それからあと、酒を仕込んでも仕込んでも失敗するもんで、毎晩毎晩滝つぼにでかけては祠にお詔りをして七日七夜の水垢をとつていのつたら、やっと元通りの酒が出るようになったとよ。」

《第四話》

飛付 観音物語

野上川をさかのぼると、うねりくねつた清流が、数丈の断崖を映して流れている景勝がありま